

八王子戦国マップ

(室町時代～八王子城落城)

※古道の道筋は推定によるものも含まれています。
※古道の道筋は時代によって変遷することがあり、諸説あります。ここに記載のものは、その一例としてご覧ください。
※伝承や伝記には異なる内容のものがありますので、ここに記載のものはその一例としてご覧ください。

参考
文献

- 『新編武蔵風土記稿』
- 『ふるさと八王子』
- 『武蔵名勝図会』
- 現地解説板、石碑など
- 『八王子事典』

金照庵跡

恩方二小の敷地内には、甲斐から連れてきた松姫一行を最初に保護した金照庵があった

松姫之碑

口留番所跡に「松姫之碑」と「金照庵跡」の石碑が立っている

御嶽神社

北条氏照が八王子城に移転した際に、滝山城下にあった蔵王権現社を勧請したものと伝わる

宗関寺

荒廃した古刹神護寺を北条氏照が牛頭山寺として再興するが、八王子城落城により廃寺となり、その跡地に宗関寺が建立された
寺号は氏照の法号からとったものとされ、後に横地監物の屋敷跡とされる現所在地に移された

宗関寺梵鐘

北条氏照百回忌供養のため中山勘解由の孫信治が寄進した

北条氏照墓

氏照の百回忌に中山勘解由家範の孫信治が追善供養のために建てた
周囲には家臣の墓も建っている

八王子神社

氏照が城の守護神としたことから城は八王子城と呼ばれた
八王子の地名の由来でもある

八王子城址碑

八王子城松木曲輪に八王子城址碑（北条氏恭家額、中山信実撰文）が立っている
隣接して八王子神社碑がある

白山神社

天文22年（1553）の棟札に大石源左衛門尉綱周が大檀那となって社殿を再建したと記されている

甘里古戦場

永禄12年（1569）武田信玄の滝山城攻めの際に小仏峠から攻め込んだ小仏田信茂隊と北条軍が戦い、北条軍が敗れた

昔の恋の物語（縁結びの木）

今から400年の昔、八王子城主北条氏照の家臣篠村左近之助に安事姫という美しい娘がいました。氏照はこの娘をたいへんかわいがり、城下の月夜峰で催される宴には、いつもそばにおいでしていました。宴ではよく獅子舞が演じられ、その中にひととき上手に笛を吹く狭間の郷士の息子という若者がいました。氏照は笛の名手でしたから、この若者を宴に呼んでは、笛の音を楽しむのでした。安事姫とこの若者はしばしば顔を合わせることになり、いつしか恋が芽生えるようになりました。そして、この木の下で逢瀬を重ねていたといひます。

北条氏照・比佐御前像

恩方一小正面に2002年度卒業制作の像がある

皎月院

開基は滝山城主大石源左衛門定久（法号皎月院英岩道俊）という

浄福寺

大永年問（1521～1527）に大石源左衛門尉入道道俊が当所に居城を構えた折、子がないことに深く悩み、寺の千手観音に祈念したところ男子が生まれた。これが源四郎康重で、後に石見守となる

浄福寺観音堂

大永5年（1525）の棟札に大檀那大石源左衛門入道道俊並子息康重の名が記されている

心源院

開基は大石源江守（法号英岩道俊）、石見守康重の父親で、初めは源左衛門と称した
天正10年（1582）当時の住職・ト山舜悦は松姫を助け、刺殺の前となった

「下原刀鍛冶発祥の地」碑

下原刀は永正の頃（1504～1520）領主大石氏が招き、この地で鍛刀した周重という刀匠を祖とするという

乾震寺

開基は滝山城主大石源江守（法名甲久院草原栄種居士）と伝わる

於屋敷

バス停に残るこの地名は浄福寺城主大石源江守の家臣の屋敷があったことからこう呼ばれたという

「下原刀匠康重鍛刀の地」碑

康重は二代目周重を名のっていたが、北条氏康から一字を賜り康重に改名したという

宝生寺

応永年問（1394～1428）に開山、永禄10年（1567）に北条氏照が滝山城下に移転させたが、天正年問（1573～1592）の初めに再びこの地に移された
宝生寺は氏照の祈願所で、八王子合戦の際に十世頼昭僧正は八王子城中で焼亡している

「史跡古市場址」碑

八王子城が移転する以前に、この地に八日市場が形成されていたことを示している

法蓮寺

甲斐武田氏の嫡が尼となって天正年間に住んでいたと伝わる

川口兵庫介館跡

武蔵七党の西党に属した川口氏は、長享の乱の際に扇谷上杉氏の下で山上杉氏と戦ったという

蔵王権現社（御嶽神社）

北条氏照が滝山城を築く際に現在地に遷座したと伝わる

海山観光駐車場

滝山城跡

少林寺

北条氏照が開基となり元亀年問（1570～1573）に創建したと伝わる

八幡宿橋

橋名に八幡宿の名が残る

新横山橋

橋名に横山宿の名が残る

梅坪天神

高月城主の大石源左衛門定久は信仰が篤く梅花鑑賞にも訪れ、滝山城主北条氏照は守護神として神殿造営や神田寄進をしたという

平の渡し

北条氏照が領主の頃は小田原から川越に通じる往還の渡しであった

左入城址碑

村内ファニーチャークセス入口に中丸淡路守の居城左入城があったことを伝える碑が立っている

日野用水

永禄10年（1567）佐藤畢人が領主北条氏照に願い出て、罪人の使用を許されて開削した用水
2017年は開削450年にあたる

安養寺

小田原北条氏の御殿医田村安松が開基したと伝わる
小田原城下の田村安松邸は、北条氏政・氏照が自害した地として知られる

極楽寺

永正元年（1504）滝山城下で大石定重が開基したとされ、北条氏照の八王子城移転により八王子城下に移転した
八王子城落城後は大横町に移転した

玉田院墓

松姫とともに連れて来た小幡（仁科盛信の嫡）は後に出家し、玉田院と称した

「下原刀匠康重鍛刀の地」碑

頼重の照は北条氏照から一字を拝領したという（碑は個人宅内にある）

大善寺

永禄年問（1558～1570）に北条氏照が滝山城下に創建したと伝わり、後に八王子城下に移転
八王子城落城後は大横町に移転し、大和田町移転を経て、現在は大谷町にある大善寺のお十夜（別掲①）

三宿三転

滝山城下にあった横山宿、八日市宿、八幡宿は、城の移転に伴い八王子城下に移り、八王子城落城後に現在地に移転した

市守神社

天正18年（1590）八王子城落城後に現在地に移された横山宿と八日市宿の市神として創建された

来光寺

開基は大江備中守師親
廃寺となったが、公園や墓地にその名が残っている

善龍寺

往時は滝山辺りにあり、城主の氏神の別当であったという

宗印寺

北条氏照の重臣で、八王子城攻めの際に討死した中山勘解由家範の嫡男照守（法号無相院可山宗印）が開基となった

御嶽神社

滝山城主大石源江守道俊が勧請したと伝わる

大石定久公像

大石源左衛門尉綱周が勧請したと伝わる

八雲神社

八王子城落城の際に持ち出された八王子神社の御神体が、後に洪水で流失し、この近くの浅川に流れ着いたものを祀ったと伝わる

清鏡寺

開基は北条氏照家臣の小田野源太左衛門

八幡神社（北八幡）

小田原北条氏全盛の頃、大石信濃守宗虎が勧請し、後に現在地に遷座したという

大石やかた公園

公園名に大石氏館の名が残る

大石宗虎屋敷のサルスベリ

永禄年間（1558～1569）の頃、大石信濃守宗虎が居城を構えていた頃の樹と伝わる

蓮生寺

旧梵鐘に「八王子之城主北条陸奥守家臣小田野源太左衛門尉綱周定建立也」の銘文があった

長池

浄瑠璃姫伝説（別掲④）が伝わる

永昌院

北条氏照家臣の葛沢豊前守が開基したと伝わる

興岳寺

本尊の薬師如来は、武田信玄家臣の石坂勘兵衛が甲斐天目山中で発見し、信玄の持仏となったと伝わる
その後、石坂氏が預かり、ここに安置されている

福昌寺

中興開基は小田原北条氏に仕えた医師後藤将監と伝わる

永昌院

北条氏照家臣の葛沢豊前守が開基したと伝わる

下馬梅

八王子城が落城し、津久井城へ伝令に走った騎馬武者が津久井城の落城を知り、仕方なく馬をおり、ムチの代わりにしていた梅の枝を道端に突きさすと、梅が根付いたと伝わる

めいめい塚

永禄12年（1569）の三増合戦の折に、北条方の落人の落人が各自で落ち行く先を決めようと相談した塚との伝承がある

真覚寺

応永18年（1411）津久井領主長山修理亮忠好が開基したという
長山は長井の誤記といわれている

樹形公園

長井氏の居館に関わると考えられる地名が公園の名に残っている

古道橋

鎌倉街道にちなむレリーフがある

松姫子育地蔵尊

原宿会館近くに松姫に由縁があるとされる子育地蔵尊がある

狭間の獅子舞（御嶽神社）

天正18年（1590）北条氏照から獅子頭と軍配を拝領したことから始まった

浄泉寺

開基は北条氏照家臣の近藤出羽守父子と伝わる

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野神社

応安年問（1368～1374）のころ、片倉城主毛利備中守師親が開基し、天正元年（1573）に北条氏照が再建したと伝わる
境内には榎と樺の相生の「縁結びの木」があり、「昔の恋の物語」（別掲③）が伝わっている

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

千代田稲荷大明神

康正3年（1457）太田道灌が千代田城（後の江戸城）築城の際、守護神として城内に勧請されたという
明治維新の際に奥女中により移された後、この地に遷座されたと伝わる

小仏開所

小仏開所は天正年問（1573～1592）に北条氏照が小仏峠に築いた富士見閣で、後に現在の駒木野の地に移したとされる

甘里古戦場解説板

解説板

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野神社

応安年問（1368～1374）のころ、片倉城主毛利備中守師親が開基し、天正元年（1573）に北条氏照が再建したと伝わる
境内には榎と樺の相生の「縁結びの木」があり、「昔の恋の物語」（別掲③）が伝わっている

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

千代田稲荷大明神

康正3年（1457）太田道灌が千代田城（後の江戸城）築城の際、守護神として城内に勧請されたという
明治維新の際に奥女中により移された後、この地に遷座されたと伝わる

小仏開所

小仏開所は天正年問（1573～1592）に北条氏照が小仏峠に築いた富士見閣で、後に現在の駒木野の地に移したとされる

甘里古戦場解説板

解説板

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野神社

応安年問（1368～1374）のころ、片倉城主毛利備中守師親が開基し、天正元年（1573）に北条氏照が再建したと伝わる
境内には榎と樺の相生の「縁結びの木」があり、「昔の恋の物語」（別掲③）が伝わっている

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

千代田稲荷大明神

康正3年（1457）太田道灌が千代田城（後の江戸城）築城の際、守護神として城内に勧請されたという
明治維新の際に奥女中により移された後、この地に遷座されたと伝わる

小仏開所

小仏開所は天正年問（1573～1592）に北条氏照が小仏峠に築いた富士見閣で、後に現在の駒木野の地に移したとされる

甘里古戦場解説板

解説板

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野神社

応安年問（1368～1374）のころ、片倉城主毛利備中守師親が開基し、天正元年（1573）に北条氏照が再建したと伝わる
境内には榎と樺の相生の「縁結びの木」があり、「昔の恋の物語」（別掲③）が伝わっている

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

千代田稲荷大明神

康正3年（1457）太田道灌が千代田城（後の江戸城）築城の際、守護神として城内に勧請されたという
明治維新の際に奥女中により移された後、この地に遷座されたと伝わる

小仏開所

小仏開所は天正年問（1573～1592）に北条氏照が小仏峠に築いた富士見閣で、後に現在の駒木野の地に移したとされる

甘里古戦場解説板

解説板

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野神社

応安年問（1368～1374）のころ、片倉城主毛利備中守師親が開基し、天正元年（1573）に北条氏照が再建したと伝わる
境内には榎と樺の相生の「縁結びの木」があり、「昔の恋の物語」（別掲③）が伝わっている

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

千代田稲荷大明神

康正3年（1457）太田道灌が千代田城（後の江戸城）築城の際、守護神として城内に勧請されたという
明治維新の際に奥女中により移された後、この地に遷座されたと伝わる

小仏開所

小仏開所は天正年問（1573～1592）に北条氏照が小仏峠に築いた富士見閣で、後に現在の駒木野の地に移したとされる

甘里古戦場解説板

解説板

唐銅五重塔

元亀元年（1570）に北条氏康が唐銅五重塔を薬王院に寄進したという（現存していない）

氷川神社

片倉城主毛利備中守師親が武蔵一の宮氷川神社を勧請して創建したと伝わる

高乗寺

開基は片倉城主長井大膳太夫高乗（法号大海道公大禅定門）と伝わり、高乗寺の寺名はこの人の名に由来するという

熊野